

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 18 年 5 月 18 日 (2006.5.18)

【公開番号】特開 2004-2372 (P2004-2372A)

【公開日】平成 16 年 1 月 8 日 (2004.1.8)

【年通号数】公開・登録公報 2004-001

【出願番号】特願 2003-104191 (P2003-104191)

【国際特許分類】

C 0 7 C 45/60 (2006.01)

C 0 7 C 49/443 (2006.01)

C 0 7 D 311/94 (2006.01)

C 0 7 D 313/08 (2006.01)

C 0 7 B 61/00 (2006.01)

【F I】

C 0 7 C 45/60

C 0 7 C 49/443

C 0 7 D 311/94 1 0 1

C 0 7 D 313/08

C 0 7 B 61/00 3 0 0

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 3 月 29 日 (2006.3.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

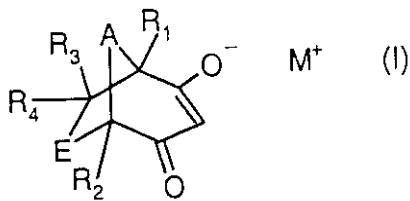
【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 以下の式 (I) :

【化 1】



{ 式中、

R₁、R₂、R₃ 及び R₄ はそれぞれ他から独立しており、水素、C₁ - C₄ アルキル、ハロゲン、ヒドロキシ、C₁ - C₄ アルコキシ、C₁ - C₄ アルコキシカルボニル、ヒドロキシカルボニル又はシアノであり；

A 及び E は互いに独立しており、C₁ - C₂ アルキレンであって、1 回又は 4 回まで C₁ - C₄ アルキル基或いはハロゲン、ヒドロキシ、C₁ - C₄ アルコキシ、C₁ - C₄ アルコキシカルボニル又はシアノで置換されることができ、かつ、

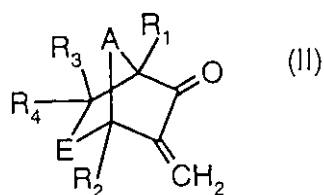
M⁺ はアルカリ金属イオン、アルカリ土類金属イオン又はアンモニウムイオンである。

}

により表される化合物の製造方法であって、以下のステップ：

a) 以下の式 (II)：

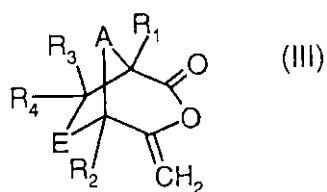
【化 2】



{ 式中、R₁、R₂、R₃、R₄、A 及び E は、式 (I) に関して定義された通りである。
}

により表される化合物を、酸化剤の存在下で反応させて以下の式 (III)：

【化 3】



{ 式中、R₁、R₂、R₃、R₄、A 及び E は式 (I) に関して定義された通りである。
}

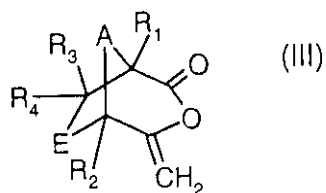
により表される化合物を作り、そして

b) その後、塩基及び触媒量のシアン化物の存在下又はアルカリ金属アルコレート又はアルカリ土類金属アルコレート、或いは水酸化物の存在下で上記化合物を式 (I) の塩に変換する、

を含む前記方法。

【請求項 2】 以下の式 (III)：

【化 4】



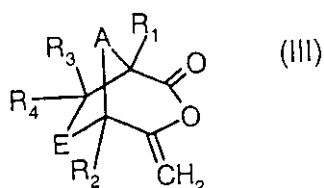
{ 式中、R₁、R₂、R₃、R₄、A 及び E が請求項 1 において式 (I) に関して定義された通りである。}

により表される化合物。

【請求項 3】 請求項 1 における式 (I) の化合物の製造における、以下の式 (III)

:

【化 5】



{ 式中、 R_1 、 R_2 、 R_3 、 R_4 、 A 及び E が請求項 1 において式 (I) に関して定義された通りである。 }

により表される化合物の使用方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

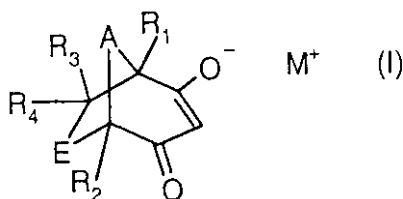
【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

したがって本発明は以下の式 (I) :

【化 6】



{ 式中、

R_1 、 R_2 、 R_3 及び R_4 はそれぞれ他から独立しており、水素、 C_1 - C_4 アルキル、ハロゲン、ヒドロキシ、 C_1 - C_4 アルコキシ、 C_1 - C_4 アルコキシカルボニル、ヒドロキシカルボニル又はシアノであり；

A 及び E はそれぞれ互いに独立しており、 C_1 - C_2 アルキレンであって、1 回又は 4 回まで C_1 - C_4 アルキル基或いはハロゲン、ヒドロキシ、 C_1 - C_4 アルコキシ、 C_1 - C_4 アルコキシカルボニル又はシアノで置換されることができ、かつ、

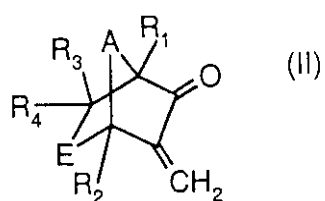
M^+ はアルカリ金属イオン、アルカリ土類金属イオン又はアンモニウムイオンである。

}

により表される化合物の製造方法であって、以下のステップ：

a) 以下の式 (II) :

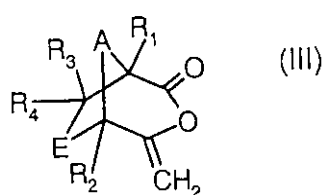
【化 7】



{ 式中、 R_1 、 R_2 、 R_3 、 R_4 、A 及び E は、式 (I) に関して定義された通りである。
}

により表される化合物を、酸化剤の存在下で反応させて以下の式 (III) :

【化 8】



{ 式中、 R_1 、 R_2 、 R_3 、 R_4 、A 及び E は式 (I) に関して定義された通りである。
}

により表される化合物を作り、そして

b) その後、塩基及び触媒量のシアン化物の存在下又はアルカリ金属アルコレート又はアルカリ土類金属アルコレート、或いは水酸化物の存在下で上記化合物を式 (I) の塩に変換する、
を含む前記方法に関する。